

銭湯でタイムトリップ。

古き良き日本文化のひとつである「銭湯」。北区にはその文化を今に伝える銭湯が3軒*ある。地下水を使用、懐かしの電気風呂も体験できる(北都湯)、同じく地下水を薪で沸かし、週替わりの薬湯なども楽しめる(奥の湯)、昔ながらの番台で受付し、蒸気サウナもある(福の湯)。長い歴史の中で、人々を温め癒やしてきた文化にじっくりと浸かってみたい。*札幌公衆浴場商業協同組合加盟店

北都湯 北27条西7丁目 営業時間 15:00~22:00
金休 Tel.(011)716-1463

奥の湯 北31条西3丁目 営業時間 14:45~22:45
(水曜のみ13:00から) 金休 Tel.(011)726-1813

福の湯 新琴似7条6丁目 営業時間 14:30~22:00
月休 Tel.(011)761-5097



15

Feeling like a small trip



奥の湯

17

Feeling like a small trip

旅気分で、 食べ歩き。

北区は、留学生を含む外国人人口が10区の中でNo.1。最も多いアジアに、アメリカ、ヨーロッパ、中南米と実に国際色豊かに、各国から人が集まっている。このため、本格的な世界の味を楽しめる飲食店の他、昨今では食材店もある。インド、ロシア、中国など、フレンチやイタリアンとは違った食事を味わってみたいと思ったら、北区へGO!



*広報さっぽろ
北区版 S53年
12月号より引用

14

Feeling like a small trip



もっと

ラーメンが好きになる。

北海道初の中華料理専門店であり、塩としょうゆで味付けされたスープにちぢれた麺とネギなどの具を添えた麺料理、のちに「ラーメン」と呼ばれるメニューを出した店(竹家)は、北9条西4丁目にかつてあった。時は大正11年(1922)、北海道大学の中国人留学生が連れてきた腕利きの料理人・王文彩(おうぶんさい)が店を繁盛させ、札幌のソウルフードとなるラーメンを誕生させた。そのせいか北区にはラーメン店が多い気がする。

16

Feeling like a small trip

スープ カレー通になる。

スパイス香る、味わい豊かなスープを味わうカレー。今や北海道の新たな郷土料理として確固たるポジションを築いているスープカレー。黎明期を経て迎えた、2000年頃の一大ブーム。それを盛り上げたのは北12条から北24条周辺に続々とオープンした各店と、それらを支えた北大生をはじめとする学生たちだと言われている。この流れを受けて、今もこのエリアはスープカレー激戦区だ。

北24条商店街
イメージキャラクター
ポブラーマン



色とりどりの青果が迎える〈中央市場〉。魚介に肉、惣菜などの店舗が軒を連ね、40年以上にわたり地域住民を支える商店街のシンボルだ。この地で60年近くも店を構える北24条商店街振興組合の小泉理事長は、1952年に市電鉄北線が延長され、その約20年後に地下鉄南北線が開通して変わっていった、人の流れと街並みを目の当たりにしてきた。かつては北のススキノと呼ばれたまちも、今は落ち着きを見せていると話す。その一方で、組合ではこれからを担う若い層や地域の学生などと盛んに交流し、イベントや地域清掃などさまざまな活動を行っているそうだ。年代を超えてみんな仲が良い、地域愛がとても強いと笑顔を見せる。昨今では他地域から飲食店の転入も増えてきていて、業種を問わずみんなで何かを発信しようという気運が高まっているという。そうした中で何よりの自慢で大切に思っているのが、やはり市場の魅力だ。お薦めや食べ方を聞くやりに取り、馴染み客と楽しむ日常会話や情報交換など、そんな対面販売ならではの良さがここにはある。誰もが気軽に立ち寄り、その魅力を味わってほしいと結んだ。

Shopping Street 北24条 商店街で、 笑顔をもらおう。

北24条商店街振興組合
北23条西4丁目
Tel.(011)707-3027

北24条商店街振興組合
理事長 小泉 昭信さん
(ペットショップ小泉 代表)(下段中)
事務局 鈴木 郁子さん(下段左)
事務局 上杉 榮志郎さん(上段中)
日の出水産 代表 竹口 末雄さん(上段左)
庄司商店 店長 上村 亮司さん(上段右)
ます屋商店 代表 吉野 恭弘さん(下段右)